

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0895500015		
法人名	有限会社 さくらの里		
事業所名	グループホーム さくらの里		
所在地	茨城県つくばみらい市2997-1		
自己評価作成日	平成24年10月26日	評価結果市町村受理日	平背25年1月11日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2011_022_kani=true&JigyosyoCd=0895500015-00&PrefCd=08&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人認知症ケア研究所
所在地	茨城県水戸市酒門町字千束4637-2
訪問調査日	平成24年12月5日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生活様式、習慣、姿勢や表情体の動きや仕草の中で「その人らしい」姿を見つけ支援しています。以前の職業や慣れ親しんだ作業など、持っている力を見出し、その力を日々の生活で活かせるように支援しています。日々の健康管理や安全に配慮し、安心して生活ができる環境を提供します。ご入居者様、ご家族、職員、地域の方々のつながりや、明るく楽しい雰囲気を大切にし、穏やかな暮らしを支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

基本理念を基に、利用者一人一人がその人らしく、暮らしの中で残存機能を生かした生活、地域の方々との穏やかな暮らし、明るく元気に安心した生活が出来るように支援している。また、施設敷地内にある畑では、季節の草花や野菜を作り利用者と共に収穫し食卓に並べている。茨城100景の福岡堰桜並木が近隣にあり、天気の良い日は散歩に出かけ近隣の方々との交流を行っている。また、継続的にボランティアの介入により、日々楽しく安心した生活が送られるように支援している様子が伺われる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は事務所各ユニット、休憩室に掲示しており、いつでも目を通せるようになっている。日々の業務やカンファレンスで共有できるように取り組んでいる。	理念を掲示し日々確認できるようになっている。また、日々のカンファレンスにて共有している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	入居者の高齢化により、近隣の盆踊りや運動会への機会は減少しているが、ボランティアが定期的に訪問しており地域との交流を図っている。	傾聴、踊り、歌、琴のボランティアが継続的に介入している。地域の敬老会に参加し、食事会やレクレーションを通して楽しんでいる。連携施設と合同にて納涼会を行い地域住民の参加はないがボランティアの参加により楽しんでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在地域の方たちに向けた勉強会は実施していない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営会議は平日に開催しており、それぞれの都合もあり定期的び開催できていない。	施設や行政、参加者の時間調整が付かず、定期的に開催されていない。	推進会議の取り組みについて検討して頂き、開催日を限定、参加者を年間で決定し定期的に行われるよう工夫して頂きたい。また、会議の内容についても、研修会や情報交換の場として、サービス向上に繋げて頂きたい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	介護保険課、社会福祉課の生保担当者とともに連絡を取っている。また市内のグループホーム連絡会にも参加しており、各施設との連絡や相談を行っている。	生活保護の書類の為に、定期的に行政が訪問している。利用者の備品について、社会福祉協議会との連携により問題解決した。地域連絡協議会やケアマネージャー連絡協議会に参加し情報交換や事例検討会を開催し連携を図っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束防止に関わるマニュアルは職員がいつでも見られる状態になっている。	身体拘束について、定期的な勉強会は開催していないが、マニュアルにて確認しやすいようになっている。ユニット間の仕切りは、カーテンにて行い先端には大きな鈴鹿がつけられ仕切りの工夫がされている。	

茨城県 グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員を対象に虐待について学ぶ機会を設けたい。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	身元引受人と話し合いを持ち、成年後見人利用に繋げた事例がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に契約書及び重要事項説明書を家族に書面と口頭にて説明を行い、疑問点等は、その都度説明し理解を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者や家族から出た意見や要望を運営に反映させるように努めている。事業所便りを季節ごとに作り、家族に利用者の日常生活の様子を伝えるようにしている。	施設便りや計画書を郵送し、利用者の日々の生活状況をお知らせし、その際に意見を聞いている。利用者からは、日々の支援を通して意見を聞いている。家族会については行っていない。重要事項の苦情処理について苦情解決者の表示について検討して行く。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々のコミュニケーションを通して、各職員からの意見を聴くように努めている。	カンファレンスは、毎日行われている。意見交換や情報交換、ケアカンファレンスは、日々行われている。研修会や勉強会は、定期的ではないが、参加報告書を通してスタッフ間で共有しスキルアップに繋げている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員の實力・実績に見合った給与体系が整っているとは言い難い。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の入れ替わりが多く一定のレベルになるまでに辞めてしまう職員が多い。		

茨城県 グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	つくばみらい市のグループホーム連絡会・ケアマネ会に参加する事で相互の交流を図っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	密にコミュニケーションを図ることで、本人の要望を把握し対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の実調時に家族とは十分に話し合いの時間を設け、家族の不安な点や疑問点を説明している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人・家族との面接を通して必要としている支援を把握し、必要に応じ本人の状態に合ったサービスを紹介している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者ができるような仕事(食器拭き・洗濯物たたみ等)は職員と協力し行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者が体調を崩したり怪我をした場合などは、その都度家族に連絡して、詳しい状況を説明している。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	施設に入居することで関係が途切れてしまい継続が難しい。家族や馴染みの方に電話を掛けたり。家族と外出を促すように支援している。	友人や家族の面会が定期的に行われている。遠方の方々との関係継続については、家族に繋いでいる。また、面会の少ない家族には、情報提供し面会の依頼をしている。	

茨城県 グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の仕事の手伝いやレクリエーションを通じて入居者同士がお互いに関わりが持てるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了後もの本人及び家族から相談があれば、本人の必要なサービスの提案等を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	施行や生活歴を把握し対応している。また、その都度表情やジェスチャー等で意向を把握し、本人本位のケアを行っている。	日々の支援を通して思いや意向を聞き支援に繋げている。また、生活歴から情報を経て支援に繋げ工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前の面接時に入居者や家族から、これまでの生活歴や生活環境の聞き取りを行い入居後も入居前と変わらない生活を送れるように配慮している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ケース記録に日々の過ごし方を記録したり、カンファレンスを開き職員が情報を共有できるように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画は利用開始時に得た情報や利用者や家族等の意見を取り入れ作成している。利用者の身体状況の変化に応じ、現状に即した介護計画を作成している。しかし全家族に確認をもらうまでには至らない。	ケアプランの見直しは、6か月または随時行っている。モニタリングは、日々の記録やスタッフからの聞き取りを行いプランに繋げている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録に日々の過ごし方を記録したり、カンファレンスを開き職員が情報を共有できるように努めている。		

茨城県 グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	身元引受人が高齢な場合や、遠方に居住している場合は社団法人に身元引受人を依頼したり、成年後見人を利用し対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	社会資源を有効に活用しているとはいえ、今後必要に応じて各所と連携を取っていききたい。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族の希望に沿って、かかりつけ医への受診を支援している。協力医院から2週間に1度往診をしてもらい適切な医療を受けられるようにしている。	2週間に1回の日曜日に往診が行われている。毎週月曜日に歯科の往診がされている。かかりつけ医受診については、家族に依頼しているが、行えない場合にはスタッフが電話にて連絡している。緊急時の受診については、同意書があるが延命治療については同意を得ていない。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	提携先の医療機関の看護師と連携を取りながら、入居者の看護や受診を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は介護サマリーを入院先の病院に送り入居者の情報提供を行っている。また受診時も受信先の病院へ書面にて情報を提供している。入院時も入院先の病院へ訪問し担当医や看護師から入居者の病状の情報を収集している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合や終末期のあり方について家族と相談を行い今後の対処法を検討している。	現在利用者家族からの看取りの要望がないので行っていない。要望があれば、今後検討して行きたい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応マニュアルを準備し、職員が常時確認できるようになっている。また職員も普通救命講習を消防署にて受けている。		

茨城県 グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	緊急連絡網及び災害対応マニュアルを作成し、今年度は10月に避難訓練を実施している。	避難訓練を年2回行う予定にしている。訓練の地域住民の参加について、地域的に住民がいないため隣接するコンビニエンスストアとの連携体制を検討して行きたい。震災後、スタッフ間で振り返りを行い共有している。	災害マニュアルと共に、地震についての具体的マニュアルの作成について検討して頂きたい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導や入浴はなるべく同性職員が行うようにしている。個人情報に関する書類は事務所等に保管し、職員以外は閲覧できないように配慮している。	トイレ誘導の声掛けについて羞恥心に配慮して行っている。プライバシー確保に関する同意書は、入居時に行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々入居者とコミュニケーションを図りながら、自己決定を尊重し、その人らしい生活が送れるように支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、流れにしばられる事無く入居者が自由に過ごしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者個人の好みや季節に応じた服装でいられるように心掛けている。理容は毎月ボランティア来所し散髪を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	施設で畑を所有しており、季節に応じた野菜を食材として提供している。入居者の能力に応じて食事作りや食後の食器拭きを職員とともに行っている。	定期的なアンケートを行い、献立に工夫がされている。準備や後方付けをスタッフとともに行い楽しんでいる様子が伺われる。また、職下に合わせた工夫がされている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各入居者の身体状況に応じた食事形態で食事を提供している。水分量も一日に必要な水分量を提供している。		

茨城県 グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	各入居者の身体状況に合わせた口腔ケアを行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を用い、排泄パターンの把握して時間誘導を行いトイレで排泄できる様に支援してる。	排泄パターンを把握し支援している。夜間はおむつを使用しているが、日中はリハビリパンツや布パンツにして、自立を促している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	レクリエーションに体操を取り入れ、毎日体を動かすように配慮している。かかりつけ医に個人の状態にあった下剤を処方を受け、排便コントロールを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は日曜日以外行っている。入浴が嫌いな入居者にもタイミングや職員を替え、できるだけ入浴できるように配慮している。	基本的には、毎日入浴できるようにしている。車いす使用の利用者についても、二人介助にて入浴支援を行っている。血行促進にて、足浴を毎日行っている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者の身体状況に合わせて日中でも居室で休憩したい柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員により使用している薬剤に対しての理解にはばらつきがあるが、服薬介助は服薬前に薬の袋に書かれている名前と本人であるかの確認を徹底し誤薬がの無いように徹底している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者により洗濯物たたみや食器拭きを行ったり、陽気の良い時季は職員とともに施設の敷地内を散歩している。		

茨城県 グループホームさくらの里

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節により散歩を実施したり、家族の協力を得ながら、お墓参りや外食等に外出できるように支援している。	天候により近隣への散歩を日常的に行っている。また、季節に合わせて地域行事に参加している。スタッフと共に、毎日の食材の買い物に同行している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金品はトラブル防止の為職員が管理しているが、入居者の希望があれば一緒にスーパーやコンビニへ出かけ買い物を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や知人からの電話は本人に取り次いでいる。また電話を掛ける時も自由にかけ		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内の清掃は毎日職員が行っている。四季に応じて適温に保てるようにエアコンで温度管理を行っている。	玄関を挟んで2ユニットの共有空間が作られている。ユニット独自の季節感を感じさせる装飾や行事ごとの写真が掲示されている。大きな窓からは、日光が差し込み、暖かな共有空間として、利用者一人一人がのんびりと過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間にテーブルやソファを配置し、入居者がおもいおもいの場所で過ごせるように配慮している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた家具や仏壇及び寝具を持ち込んでもらい、入居後も以前の生活に近い状態で過ごせるように配慮している。	使い慣れた家具や仏壇が置かれている。家族写真や季節の花が飾れ居心地良い居室になっている。転倒転落予防の目的にて、床に布団を敷いて休めるような工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ユニット内や居室に手すりを配置し、安全に移動できるように配慮している。また居室の入り口に各入居者の名札や目印を配置している。		

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	3	運営推進会議を平日に開催しているが、施設や行政、参加者の時間の調整がつかず定期的な開催を行えていない。	運営推進会議を定期的で開催する。	年間の開催日及び参加者を決め、関係各所に通知し日程や参加の有無を確認することで、定期的な運営推進会議を開催できるようにする。	3 ヶ月
2	13	緊急連絡網及び災害対策マニュアルは作成しているが、地震についての具体的なマニュアルは作成していない。	地震時のマニュアルを作成する。	各職員と震災についての話し合いを行い、地震時の具体的なマニュアルを作成し、定期的に震災を想定した避難訓練を実施できるようにする。	3 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入して下さい。